

ものしり瓦版 5000号 出雲大社・平城京・伊勢神宮を繋ぐ直線

2014年9月3日、『ものしり瓦版』は5000号に達しました。日本の動きや世界の動き、自然科学や人文科学、古代のできごとや現代のできごとなどなど、多方面の分野に関心を広げてもらうため、毎日発行している『ものしり瓦版』です。

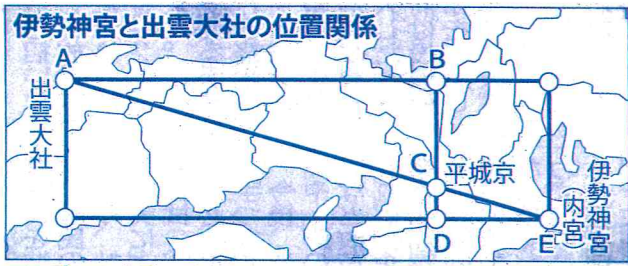
『5000号』で紹介したのは、「伊勢と出雲をつなぐ方法 古代にも理論的には可能」の記事(毎日新聞 2014年4月16日付)。

* 出雲大社と伊勢神宮の内宮を結ぶ線は平城宮の中心を通り、出雲大社と伊勢神宮の外宮を結ぶ線は平城宮(平城京の北部)の中心を通っている。

* 平城京の造営は、出雲大社と伊勢神宮を結ぶ線上に計画されたのでは。

$\triangle ABC$ の $\triangle EDC$ より $AB:ED=BC:DC$

AB、BD、DE、それぞれの距離が水準測量によって測定できれば、三平方の定理を用いてBCとCDの距離が算出できる、すなわち直線BD上にCの位置=造営すべき新都(平城京)の位置を確定したのではないかという説です。



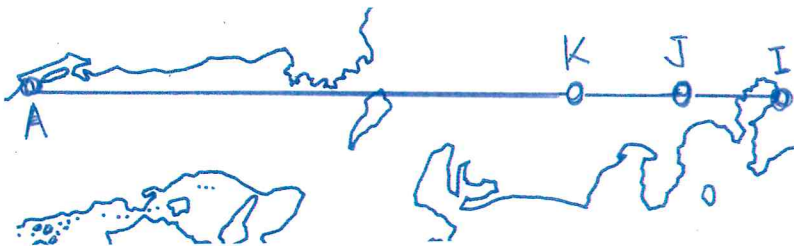
どこかの地域を訪ねる際に、地図があれば重宝します。その地図は、地形図のように、方位も距離も正確であるとは限りません。むしろ、方位も距離も度外視して描かれた地図の方が、わかりやすい場合もあります。

昔は、方位の吉凶占いに縛られていました。F地点からG地点に行く必要があり、F地点からG地点への方位が凶である場合、一旦F地点からH地点に出発地点を移動し、HGの方位が凶にならないようにしてからG地点に向かいました。

現代では、このような「方違へ」の風習がなくなり、出かける際に方位を気にする人は少なくなりました。まして、自分の住んでいる地点から遠く離れた東西南北の直線上に何があるかなど、めったに調べないでしょう。

千葉市から北の方角には筑波山があり、さらに北に進めば磐梯山があり、さらに北へ進めば岩木山があることも。

千葉市(I)から西の方角には高尾山(J)があり、さらに西に向かえば北岳(日本第二の高峰・K)があり、さらに西へ西へと向かえば出雲大社(A)があることも。



地図を持たずによく知らない地域を訪ねる際、頼りになるのは、山や川などの自然物と、建物や道路などの人工物です。中でも高くそびえ立つ山は、格段に頼りがいのある存在です。

古の時代、都を新たに造営するにあたり、その位置を定める拠り所となったのは、おそらく山であったでしょう。

平城京の造営に先立ち、日本初の本格的な都が、奈良盆地の南部に造営されます。新益京(あらしのみやこ・藤原京)です。

天皇が住み役所が連なる藤原宮から見て、北には耳成山、南には甘樫丘、東南には天香具山、西南には畝傍山がそびえます。

冬至の日、藤原宮内で一番重要な建物=大極殿の前面に立つと、天香具山の山頂から陽が昇るのが見られます。

春過ぎて夏来るらし白袴の衣干したり天香具山

持統天皇 万葉集 第28首

持統天皇(藤原宮御宇天皇)の有名なこの歌は、季節の移り変わりを衣に託して表現するだけでなく、新たに造営された藤原京を基盤に政治を刷新しようとする意気込みを詠いあげています。天香具山を見上げる地に、都を造営できた喜びをかみしめながら。

大和三山および甘樫丘を取り込む形に藤原京は計画され、天香具山山頂から冬至の日の出を仰げるように藤原宮は設計されています。

そのため、平城京や平安京など後の都と違い、藤原京のみ、都の中心に宮が造られました。この日本唯一の形式の手本とされたのは、慶州(キョンジュ・新羅の都・金城)。伊勢神宮(E)ー平城京(C)ー出雲大社(A)を結ぶ直線を、日本海を越えて延ばすと、朝鮮半島の慶州(L)に達します。



飛鳥浄御原令を制定して律令政治の基礎が固まったと考えたのであろう持統天皇は、皇位を孫の文武天皇に譲ります。文武天皇の夫人は、藤原宮子(藤原不比等の娘)。

4年後、大宝律令が完成します。作成の中心を担ったのは、藤原不比等。

その7年後、武蔵国で産出された銅を利用して銅銭(和銅開珎)が鑄造された年、藤原不比等は右大臣に昇任します。そして、発せられたのが、「遷都(藤原京から平城京へ)の詔」です。

平城遷都が、藤原不比等によって画策されたことは、次の諸点から明らかです。

1. 政界トップの左大臣・石上麻呂を藤原京の留守役とした。
→ 平城京に遷る右大臣・藤原不比等が、事実上の政界トップに。
2. 平城宮の東隣=左側=上座に、東院を設け、首皇子(藤原宮子の息子・藤原不比等の孫・後の聖武天皇)の住まいとした。
3. 東院の東側=左側=上座に、藤原不比等の邸宅を設けた。
4. 日本にも朝鮮にも中国にも例がない外京を、左京の東隣=左側=上座に設けた。外京の中心部には、藤原氏の氏寺・興福寺を建立した。
5. 平城宮ー興福寺を結ぶ直線を延長した先にある春日山を守り神とし、麓に藤原氏の氏神・春日大社を建立した。

奈良盆地の北部にあたる平城宮から見て、北には奈良山、東側には若草山(三笠山)・春日山・高円山、西には生駒山がそびえます。

春分の日と秋分の日、若草山(三笠山)の山頂から陽が昇るのが見られます。

冬至の日、高円山の山頂から陽が昇るのが見られます。

若草山(三笠山)と高円山の中間に、春日山がそびえます。

冬過ぎて春来るらし朝日さす春日の山に霞みたなびく

詠み人知らず 万葉集 第1844首

左京と外京を区切る東四坊大路は、古来からの幹線道路である中ッ道に続き、天香具山に至ります。

伊勢神宮(E)ー平城京(C)ー出雲大社(A)を繋ぐ直線をさらに延長すると、慶州(L)を経て朝鮮半島を横断し、黄海を越え、中国大陸に渡った後、西安(シーアン・唐の都・長安・M)へ行き着きます。

